

■基本目標1:村の魅力を磨き新たなしごとを創出する

推進会議の評価						
基本目標		基準値	目標値	実績値 (R2年4月1日～ R5年3月31日)	令和4年度評価	今後の展開
新規創業者数		－	5年間で3団体	2団体 (66.6%)	目標値の達成に向けて、 概ね進んでいる。	引き続き起業・創業に向けた支援を検討するほか、特定地域土 地利用計画に則した、積極的な企業誘導を図ります。
施策名	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	実績値 (R2年4月1日～ R5年3月31日)	令和4年度 取組状況	今後の展開
(1) 多様な村の資源を活用した新たな企業の誘致・誘導						
①. 土地利用に係る厳しい規制に対応し、限られた土地 の適切で効果的な利用の推進	新規事業所の誘致数	－	5年間で10事業所	11事業所 (110%)	4事業所 製造業:1事業所 サービス業:1事業所 介護・福祉業:1事業所 一般土木建築業:1事業所	活性化に向けた企業誘導等により目標値を達成しましたが、今 後も愛甲商工会との連携による創業支援のほか、積極的な土地 利用、サテライトオフィスの活用により、企業誘導を行います。
	②. 村の資源を活かした地域産業の創出の促進	特産品開発に係る連携大学数（短期大学含む）	0校 (H30)	5年間で1校	0校 (0%)	0校
(2) 特色ある農林業の支援						
①. 農林業従事者への支援の充実 ②. 美しいきよかわの景観の保全	不耕作地の減少	352,542㎡ (H30)	10%減少	1.18%減少 (11.8%)	農地利用集積計画による 農地貸借件数:1件	農地貸借を通じ、2,523㎡の不耕作地が解消しました。今後も関 係機関と連携しながら農地バンク制度の利用促進と農業法人に よる営農を推進し、不耕作地の減少を目指します。また、鳥獣の 捕獲や盗払いなどを実施し、農作物への被害を防止することで、 営農意欲の促進を図ります。
	野生鳥獣被害防止柵等設置事業助成金利用件数	6件 (H30)	5年間で30件	19件 (63%)	1件(電気柵:1件) 補助額:73,400円 設置面積:39a	野生鳥獣による農作物及び生活被害の軽減を図るため、野生 鳥獣被害防止柵等の補助事業を推進するほか、地域ぐるみによ る集落環境整備を推進することにより、被害軽減を目指します。
	道の駅新規販売品目数（村特産品利用品目数）	－	5年間で30品目	15品目 (50%)	15品	季節的な商品を含む新規の販売品目が増加しました。今後も出 荷促進を継続して実施するほか、目標達成に向け新規特産品の 商品化を推進します。
	村産食材を活用したグルメの開発	－	5年間で5品	9品 (180%)	2品	今後も引き続き相模女子大学と、お茶を活用したグルメ開発 を行い需要の拡幅と魅力を発信します。また開発したグルメのレ シピを村内事業者に展開していきます。
(3) 元気な事業者の育成・支援						
①. 事業者の活性化や創業者に向けた支援の充実	起業・創業に係る相談件数	－	5年間で5件	12件 (240%)	2件	愛甲商工会との連携を通じ、事業環境分析データの考え方や利 用方法、創業者の立ち位置の分析や利用方法の普及を検討した 側面支援を継続します。
(4) 観光資源の活用による村の活性化						
①. 村のシンボルである宮ヶ瀬湖等の魅力を存分に活用 し、四季それぞれに人々が集まる、より一層の魅力 づくりの推進 ②. 観光資源の有効活用	観光入込客数	299万人／年間 (H30)	230万人／年間	2,304,394／年間 (100.1%)	2,304,394人／年間	緊急事態宣言下での人流と比較し、行動制限解除後の人流の 変化もあるものの、村内施設、各種イベントにおける誘客の取 組みを継続し、来訪者増を図ります。
	村外における特産品の取り扱い店舗数	－	5年間で5店舗	2店舗 (40%)	1店舗 (青空と大地 七沢温泉 食の市)	特産品をブランドとして認定する「清川ブランド制度」を推進し、 認知度の向上と村外での特産品の取り扱い店舗の増加を図りま す。
	新規イベント数	－	5年間で10件	2件 (20%)	1件	新規イベントの誘致は清川村へ来訪するきっかけ作りや入込観 光客数にも直結する重要な要素であるため、既存イベントとの マッチアップ等を視野にいったイベント誘致を継続します。
	自然と親しめる施設の整備	－	5年間で1箇所	1箇所 (100%)	1箇所	宮ヶ瀬地区での新たなアクティビティ要素となるボルダリング ボードや、観光情報の発信を目的とした掲示ボード等の活用を図 ることで、宮ヶ瀬へ来訪される方々へコミュニティの場の創出を図 ります。